

1. 平成16年新潟県中越地震

婦人防火クラブによる平成16年新潟県中越地震に係る 炊き出し支援のご報告及び関係者の皆様への謝意等について

本年は、全国各地に様々な自然災害による大きな被害をもたらしました。

現在も多くの地域で災害対策本部が活動中であり、被災地の皆様に改めてお見舞いを申し上げますとともに応急・復旧対策に邁進しておられる関係者の方々に対しまして深く敬意を表したいと存じます。

さて、標記中越地震災害につきましては、先に平成16年10月26日付防火協第160号により当協会よりの支援金・義援金口座開設のご連絡を申し上げました際、当面、現地への直接のご支援は見合わせたい旨お知らせしたところであります。

しかしながら、その翌日、10月27日(水)に当協会あて電話にて小千谷地域消防本部を通じ同市婦人防火クラブより「炊出し要員が不足しており、広域応援が可能ならば支援をお願いしたい。」との要請がありました。



以下、その対応状況等についてご報告申し上げ、今後におきます大規模災害時における広域応援実施に当たっての参考に供させていただき、ご協力いただいた方々への謝意に代えさせていただきたいと存じます。

(要請後の即時対応等)

当協会におきましては、直ちに小千谷市に現地調査を行うべく担当者を派遣し、同時に総務省消防庁(防災課)、近県婦防連会長、近県消防主管課及び新潟県災害対策本部等と連絡調整し、翌28日(木)に炊出

し支援部隊の派遣を進めることといたしました。

なお、このような災害支援は一義的には県内対応が基本ですが、新潟県は県レベルの婦人防火クラブ連絡協議会が未設置という条件下、同県にて婦防の窓口業務を行っていただいている危機管理防災課様にも県内の動きをうかがう状況にないと判断させていただき、新潟市消防本部等に婦防の支援状況や県内支援が可能か等直接問い合わせさせていただきました。

因みに、新潟市は11月1日に1万個のおにぎりを製作し、被災地に搬送することとしており、婦人部にその対応をお願いしている等市内での応援が基本とのことでしたが、婦防クラブの所在する被災地外の市町村それぞれ様々な支援を行っておりました。

去る7月の福井県豪雨災害に対する現地支援に引き続き、同一ブロック内の年内二度に及ぶ支援となりましたが、迅速に対応いただいた富山県、石川県、群馬県、埼玉県、千葉県及び同県消防協会、静岡県、愛知県及び同県消防協会関係者の皆様、並びに各県婦人防火クラブ連絡協議会会長様に厚く御礼を申し上げます。

(支援に参加された方々)





支援にご参加いただきました皆様は、富山県松岡会長以下県下の婦防10名の方々、石川県消防防災課職員以下金沢市及び消防職員を含む加賀市の計10名の方々を主力に、静岡県鈴木会長(ほか1名)、群馬県藤井会長、埼玉県新井会長(ほか1名)、千葉県竹内会長そして愛知県常沢、小林両副会長の方々でございます。(末尾の参加者一覧をご覧ください。)

それぞれ一泊2日から三泊4日と各位日程を組み、現地に赴いていただきましたクラブ員の皆様には、ご多忙にもかかわらず、緊急の要請に応じ、地震による交通機関の寸断、道路の遮断等現地へのア

クセスすら困難な条件下、通常なら5、6時間の旅程のところ9時間余も要した方もおられる等本당にご苦労をおかけしました。

とりわけ、現地におきましては、悪天候や厳しい寒さに加え、震度5を含む余震が引き続き、作業や睡眠がしばしば妨げられる中、粛々と支援に従事していただきました。

さらに、現地小千谷市婦人防火クラブ代表佐藤笑子様ほか8名のクラブ員におかれましては、全員被災者であり、当時なおテントや車の中で夜を過ごされるなど避難中にもかかわらず、また、ご自宅の整理・清掃や地域の応急対策に携わりながら、4日間にわたり、自発的に活動を共にしていただきました。

地元婦防は消防本部の指導の下、平時から活発に活動しており、偶々発災5日前の10月18日に約40名による新潟市等への市外視察研修を行った直後であったこと、佐藤代表(会長)等3名のクラブ員が前年(平成15年)7月当協会主催の「全国婦人防火クラブ市町村幹部研修会」に参加されていたこと等研鑽を積まれておられたことで「結束力や使命感が培われていた(佐藤会長談)。」とのこと。



なお、発災直後は消防本部やクラブ員間の連絡も途絶え、避難先も同一地区でも何箇所にも散逸し、停電と道路の破損等もあり安否確認すら困難な状況にあったそうです。佐藤会長の地元区長のお話では、「地区全域が被災したが、発災翌日から堅固な保育園を避難所拠点とし、炊事班等住民の役割分担を定め、給食も集中して行った。奥地の畑に立ち入ることが出来ない等食材の入手には苦労した。何より生活再建は自立が大切、交通条件が改善され、一部の商店が開業した11月3日には、全住民に自立を図るよう促し、避難所の炊出しは行わない。」とのことで地元再建に向け、早くも歩み出しておりました。

また、新潟県上越地域消防組合(旧直江津市、旧高田市等)様には、多人数となった11月4,5日の2日間、2名の職員と共に2マイクロバスの派遣をいただき、支援者の送迎及び静岡県婦防からお届けいただいた新鮮な野菜など支援物資の搬送等を行っていただきました。



(支援活動状況等)

他県からの支援者は、当協会の用意した柏崎市内の旅館に拠点を置き、現地支援は小千谷市災害対策本部の直接の指示の下で自衛隊災害派遣部隊及び市職員と共に活動することとなりました。

なお、柏崎市から小千谷市へのアクセスは、高速道路が29日に復旧したものの緊急車両優先等により大渋滞でしたので、柏崎市内在住の方で小千谷市に店を出している方から小国町経由の迂回路をお教えいただきますと、全く渋滞もな

く30～40分程度の所要時間で到達可能となりました。

このような場合は、やはり地元の方にうかがうのが良いようです。

早朝5時過ぎの起床、6時朝食、7時からの現地作業と日程も厳しく、10月31日(日)から11月5日(金)までの6日間、オニギリだけでも計6万2千個、1日平均白米650キロ、1万個を握り続けました。

しかしながら、自衛隊による炊飯との共同作業ですから、間断のない炊き上げに合わせての立ち通しの作業であり、ほとんど休憩時間もなく昼食すらも取れない状況で、早朝7時から11月1日の1万4千個のピーク時の作業終了は午後3時ごろとなりました。

炊き上げ直後の高温に耐えられるよう軍手の上にゴム手袋をし、包装用の薄いビニールにご飯をよそる者、漬物等切り出された具をまぶす者、握る者、数を確認し搬送車への引渡しを担う者等の流れ作業ですが、握りすぎると時間と共に硬くなって高齢者には不向きということで婦防の皆様、それぞれ握り加減にも気を配っておられました。

なお、11月5日時点に至りましても、おにぎりへの避難住民の要望は強く、なかなか必要数が確保できないそうで、市災対本部は7日(日)まで作業を続けるとのことでした。



実際、ある避難所の区長さんは、「おにぎりなど見たこともない。」(11月3日)と語っておられましたが、市の懸命なご努力にもかかわらず、避難者・避難場所が余りに多いこと等からの配送・配布作業の困難さをうかがわせました。なお、その避難所も区長さんを中心に、炊事班や遠方の町への買出し班などを組織し、自立・自活の避難所運営に努めておられました。

私どもの支援を5日で打ち切りとしましたのは、都市ガス等ライフラインは依然として完全復旧の目途は立たず、避難住民も大きく減少していないが、市内のスーパーやコンビニがかなり営業を再開したこと、交通条件が著しく改善したことで物流への支障も改善し、かつ、6, 7日、土、日には県内外の一般ボランティアが相当入市するであろうという判断によるものであり、関係機関のご了承を得て撤退をいたしました。

なお、お見送りいただいた小千谷地域消防本部も組合消防として山古志村や川口町という甚大な被災地を抱え、発災直後から文字通り不眠不休で対応に当たっておられました。救急業務を見ましても市民病院がほとんど機能不全に陥り、入院患者、重症患者等は、

へりにより上越地域等に搬送せざるを得ないという状況で、このような職員の皆様の献身的なご努力にも改めて敬意を表したいと存じます。

厳冬を目前に、さらに長い復興・復旧の困難な日々が続くことですが、地元婦人防火クラブの皆様を始め震災に見舞われた地域の一日も早い復興をお祈りしつつ1週間に亘る支援作業を終えました。

ご参加いただいたクラブ員の皆様におかれましては、機会あるごとに被災現場の状況、避難所運営、

支援物資のあり方や搬送・配布、とくに福井豪雨災害時の支援と合わせ「食」を通じた災害対応について皆様が見聞された実態や貴重なご経験をそれぞれの地域はもとより全国の婦人防火クラブ、消防関係者等にお伝えいただきたいと存じます。



平成16年度新潟中越地震・緊急支援参加者一覧

氏名	所属	所轄消防本部名	備考
竹内 久子	千葉県婦人防火クラブ連絡協議会会長		
藤井 千鈴子	群馬県婦人防火クラブ連絡協議会会長		
新井 明子	埼玉県婦人防火クラブ連絡協議会会長		
小林 寿美子	越谷市婦人防火クラブ連絡協議会会長	越谷市消防本部	
大島 玉子	金沢市婦人防火クラブ協議会会長 (石川県女性防火クラブ連絡協議会副会長)	金沢市消防局	
本谷 悦子	金沢市婦人防火クラブ協議会副会長	〃	随行：石川県消防防災課
有田 登美子	〃	〃	
竹川 操枝	〃	〃	
山本 広子	加賀市女性防火クラブ連絡協議会	加賀市消防本部	随行：加賀市（本）消防課
西 柳子	〃	〃	（2名）
正木 里江子	〃	〃	
松岡 昌子	富山県婦人防火クラブ連絡協議会会長		
吉岡 千鶴子	高岡市下関婦人消防隊	高岡市消防本部	
中井 好子	福野町八塚婦人防火クラブ	礪波広域圏事務組合消防本部	
片山 睦子	〃	〃	
高波 喜代美	小杉町婦人防火クラブ金山支部	射水消防組合消防本部	
石倉 直美	滑川市野町婦人消防隊	滑川市消防本部	
堀 實子	立山町婦人消防隊連合会	立山町消防本部	
関沢 美保子	新湊市婦人防火クラブ連絡協議会	新湊市消防本部	
大浦 まる子	福光町婦人防火クラブ連合会	礪波広域圏事務組合消防本部	
住本 晴美	八尾町野積婦人防火クラブ	八尾町消防本部	
鈴木 政子	静岡県女性防火クラブ連絡協議会会長		
木村 淑恵	静岡県女性防火クラブ連絡協議会	磐南行政組合磐田消防本部	
常沢 ゆかり	愛知県婦人消防クラブ連絡協議会副会長		
小林 春代	〃		
佐藤 笑子	小千谷市婦人防火クラブ連絡協議会会長	小千谷地域広域消防本部	
内山 笑子	小千谷市婦人防火クラブ員	〃	
若井 久子	〃	〃	
石坂 弓子	〃	〃	
大竹 孝子	〃	〃	
佐藤 カズ工	〃	〃	
田中 多恵子	〃	〃	
小船井 キヨ	〃	〃	

※11/4～11/5上越地域消防事務組合（直江津市／高田市）より、職員2名派遣を受け、柏崎⇄小千谷市間の送迎を担当。

※敬称 略